

院内がん登録集計

- 集計対象：・当院で診断または他施設で既に診断されたのちに自施設を初診した症例を集計しました。
 ・当院で診断や治療されていないセカンドオピニオン等の患者さんは含みません。
 ・1腫瘍1登録が原則です。
 ・同一患者さんに別のがん腫と判断される「がん」が、同時または異時性に生じた場合には、それぞれの症例として登録します。
 ・「自施設初回治療開始」には「経過観察の決定・実行」を含みます。

対象期間：1月1日から12月31日までの1年間

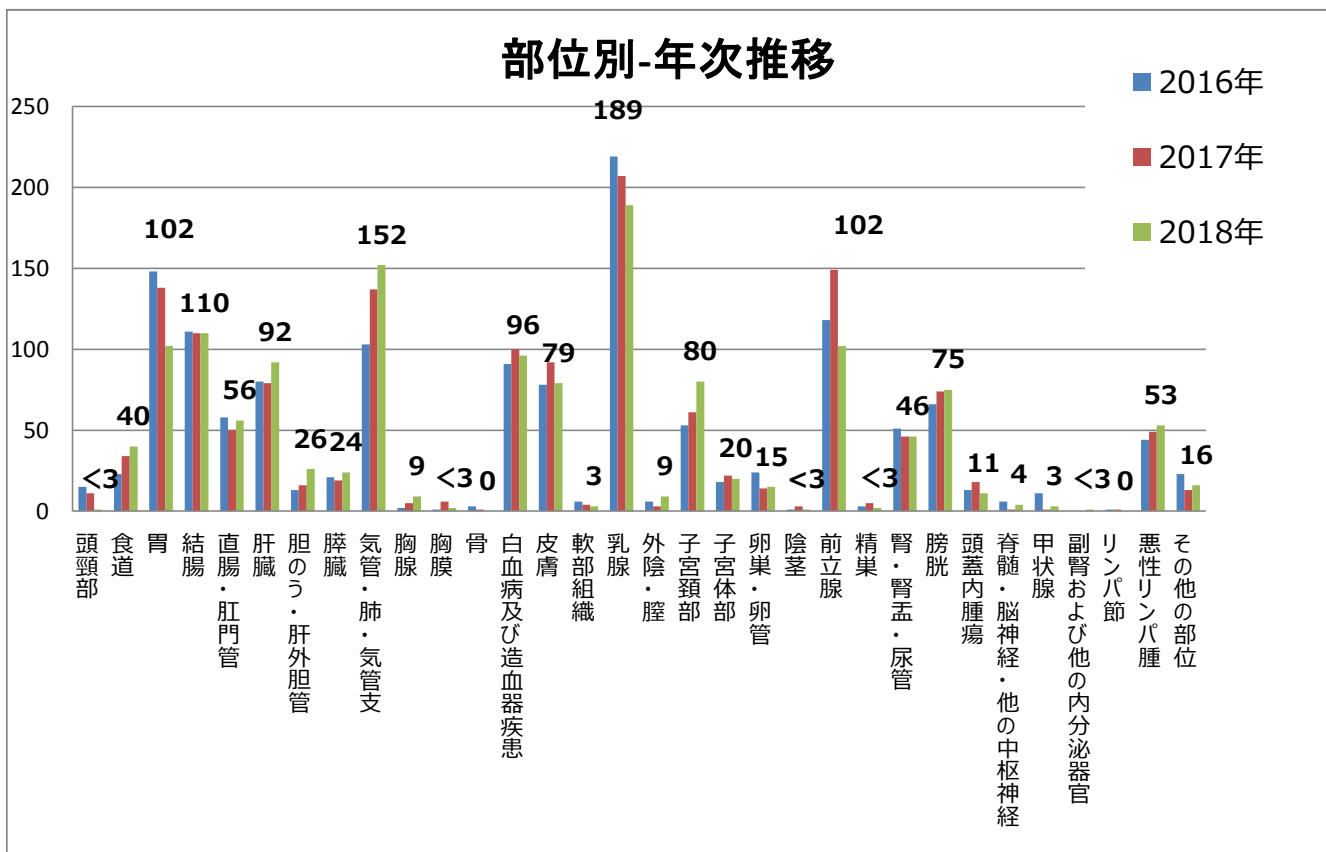
	集計対象	【症例区分】					
		1.診断のみ	2.自施設診断 自施設治療			3.他施設診断 自施設治療	4.他施設にて 初回治療 開始後
2014年	1,046	38	653			210	145
2015年	1,206	74	756			251	125
2016年	1,410	診断のみ	自施設診断		他施設診断		初回治療 終了後
			自施設初回治療 開始	自施設初回治療 継続	自施設初回治療 開始	自施設初回治療 継続	
2017年	1,469	73	955	6	284	47	104
2018年	1,419	45	995	3	265	38	73

* 2016年から症例区分の定義が変更されています。

* 症例数3未満は <3 と表示しています。

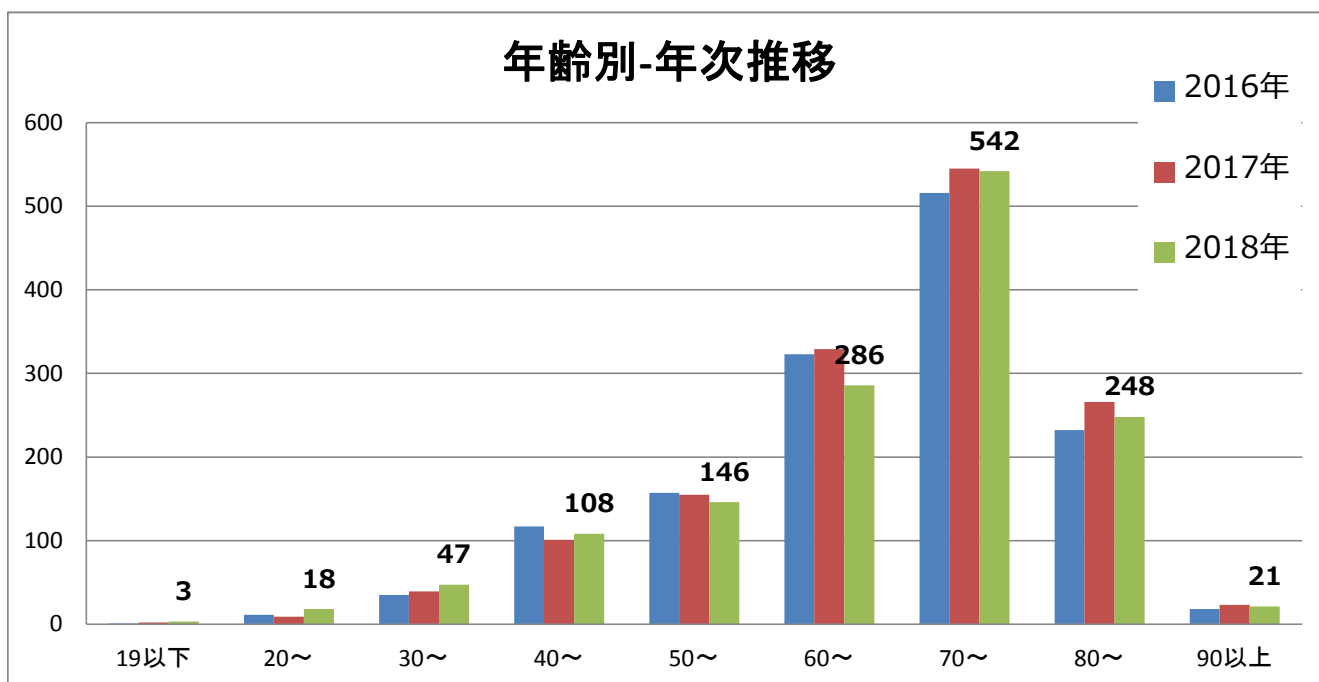
【部位別-年次推移】

部位別では「乳房」が多く、次いで「前立腺」「胃」「肺」の順に多く、「結腸」と「直腸」を合わせると2番目に多いです。



【年齢別-年次推移】

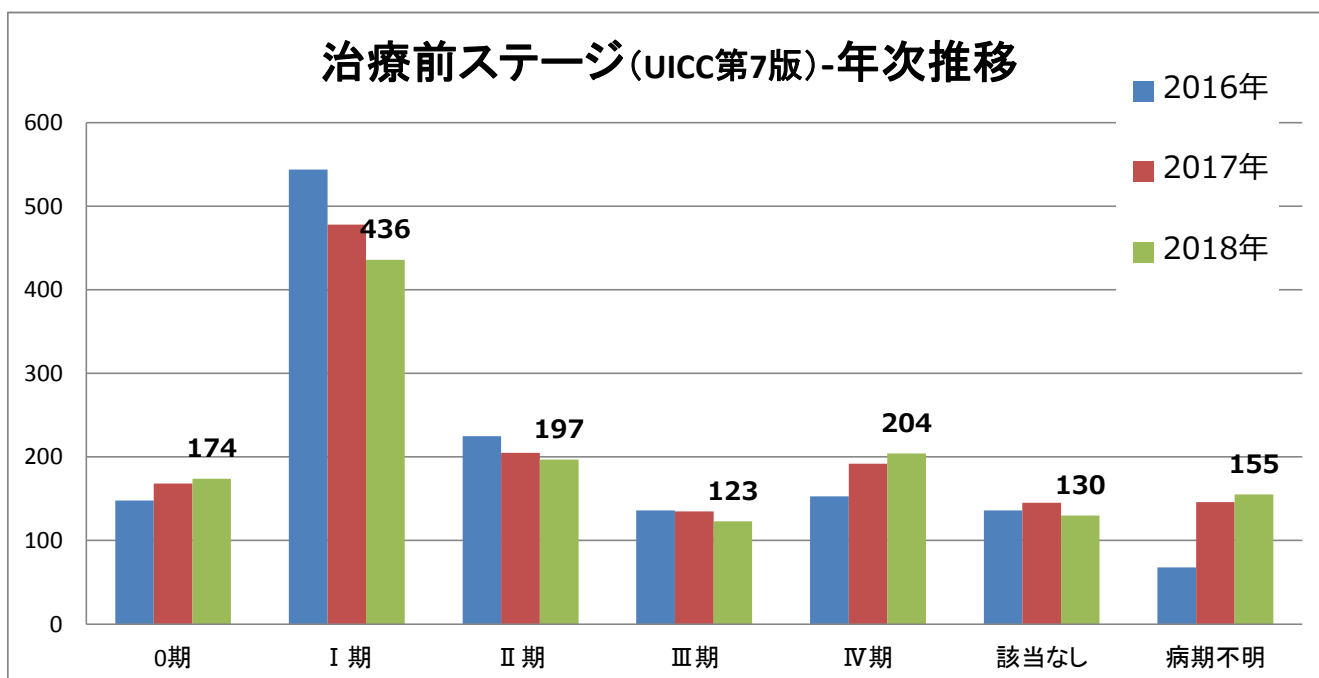
70歳代に大きなピークが見られます。



【ステージ別-年次推移】

ステージとは、「がん」がどれくらい進行しているかという進行度合いを意味し、0期からIV期までの5段階に分類します。治療前のステージをUICC第7版で集計しました。白血病などUICCのステージがないものは「該当なし」としています。術前は「良性」とされ術後病理で「がん」が診断された場合、治療前ステージは「病期不明」としています。

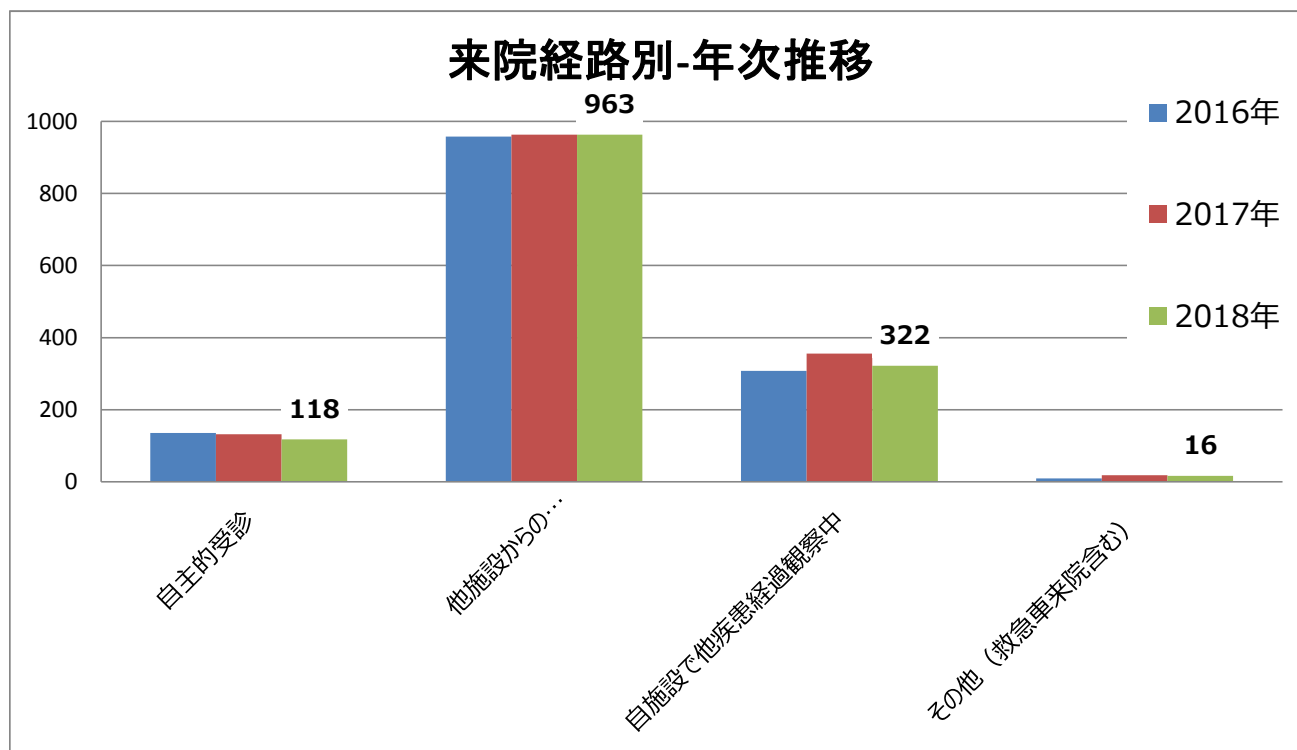
各年とも I 期の患者さんが多く見られます。



【来院経路別-年次推移】

来院経路とは「がん」診断・治療のためにどのような経路で当院を受診したのかを把握する項目です。

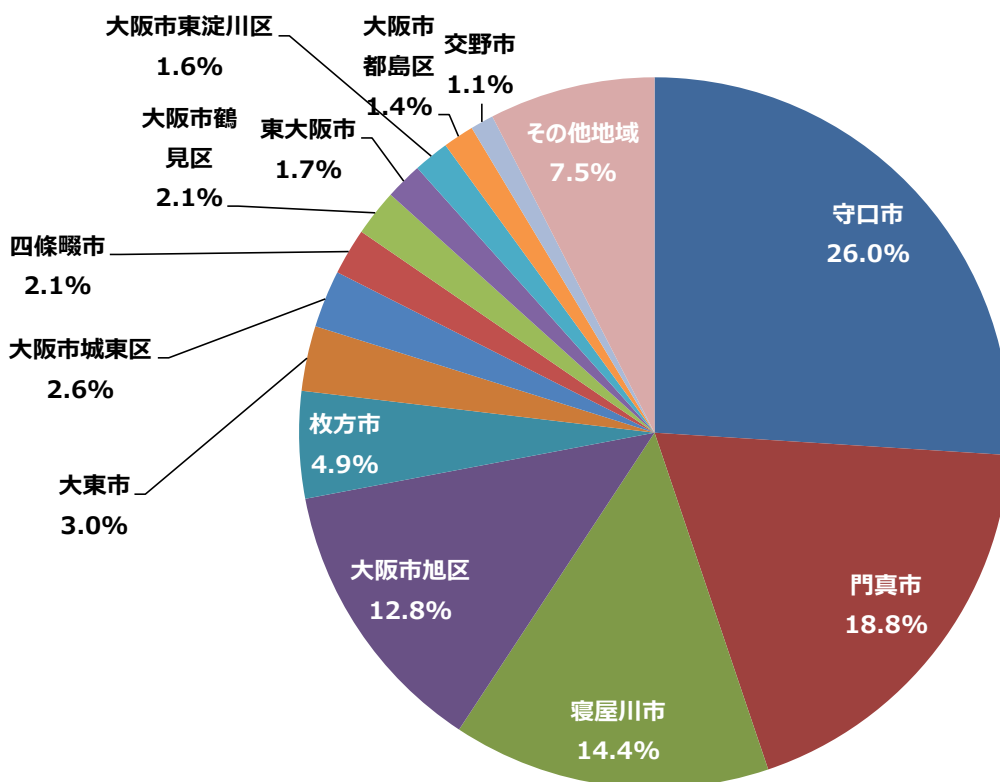
各年とも紹介患者の集計項目である「他院より」「他施設からの紹介」が6割から7割を占めています。



【診療圏】

北河内医療圏と大阪市東北部の市区からの患者さんがほとんどを占めています。
 当院の立地から、北河内医療圏でも京阪本線沿線から来院される方が特に多いと思われます。
 他府県から来院される方は少ないです。

都道府県別	大阪府二次医療圏別	北河内医療圏
大阪府 1,388	北河内 997	守口市 369
京都府 9	大阪市 331	門真市 267
奈良県 9	中河内 30	寝屋川市 205
兵庫県 4	三島 16	枚方市 69
他 9	豊能 8	大東市 42
	南河内 3	四條畷市 30
	泉州 <3	交野市 15
	他医療圏 <3	北河内合計 997
	大阪府合計 1,388	
総計 1,419		



【部位別-男女別】

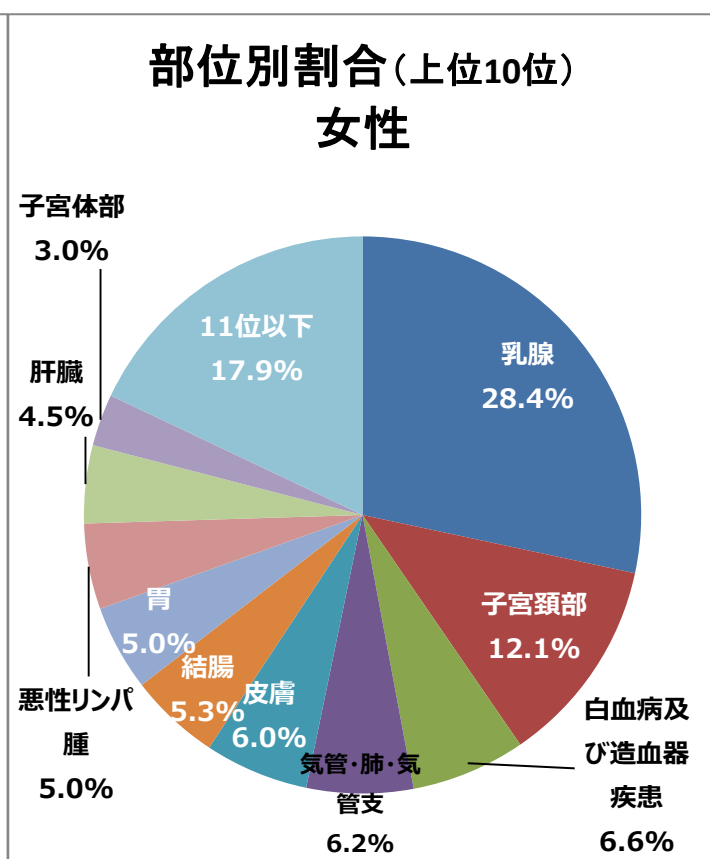
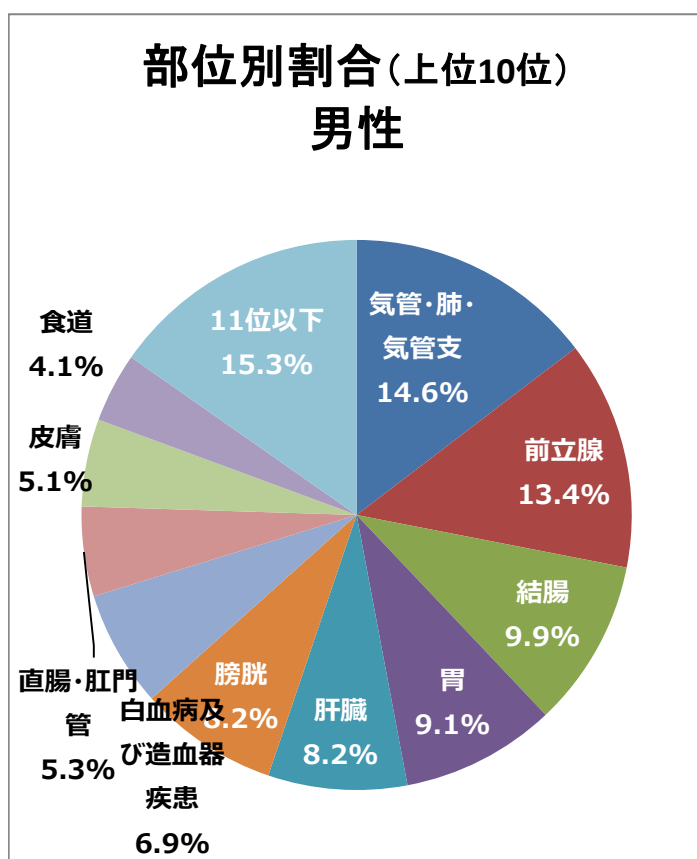
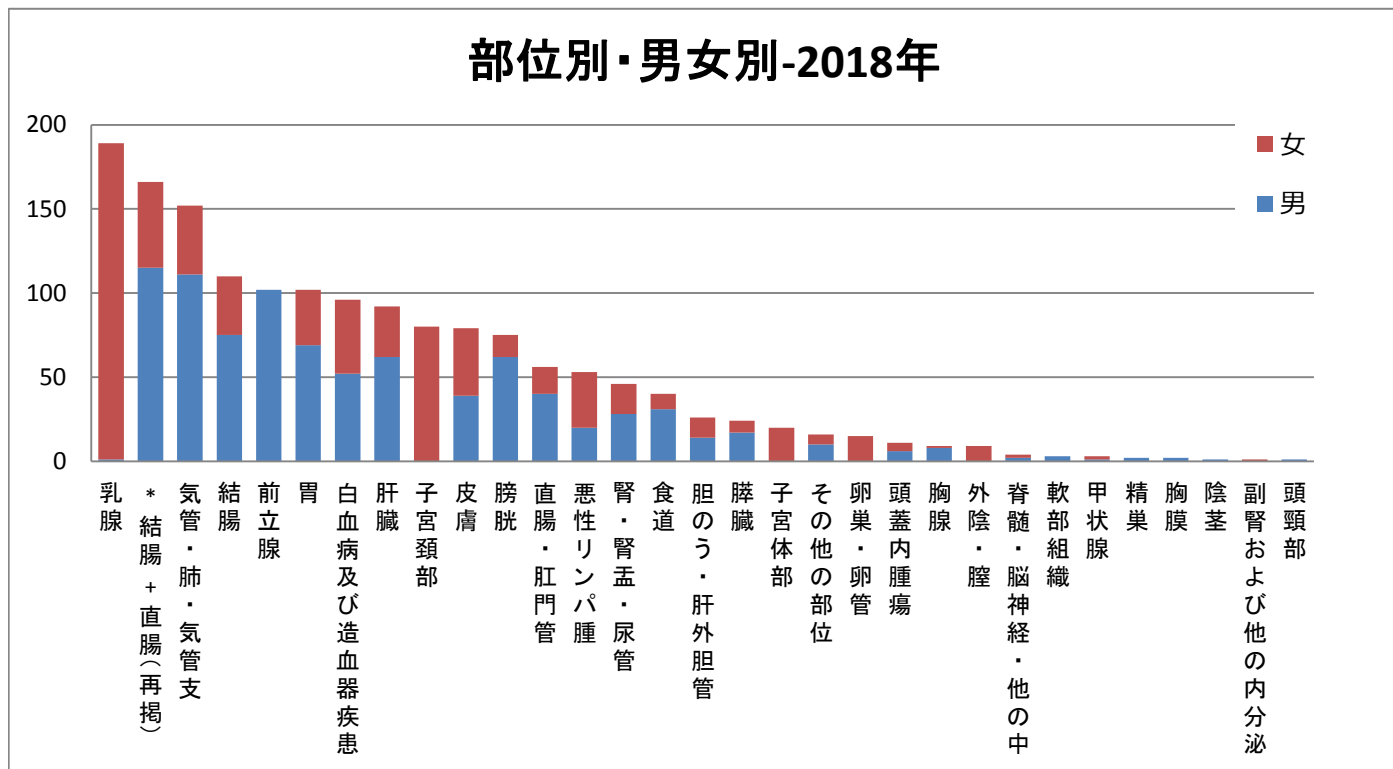
1番症例が多い「乳腺」はほとんどが女性です。

2番目に多い症例「気管・肺・気管支」です。

「結腸」と「直腸」はそれぞれでは3位と11位ですが、合わせると2位になります。

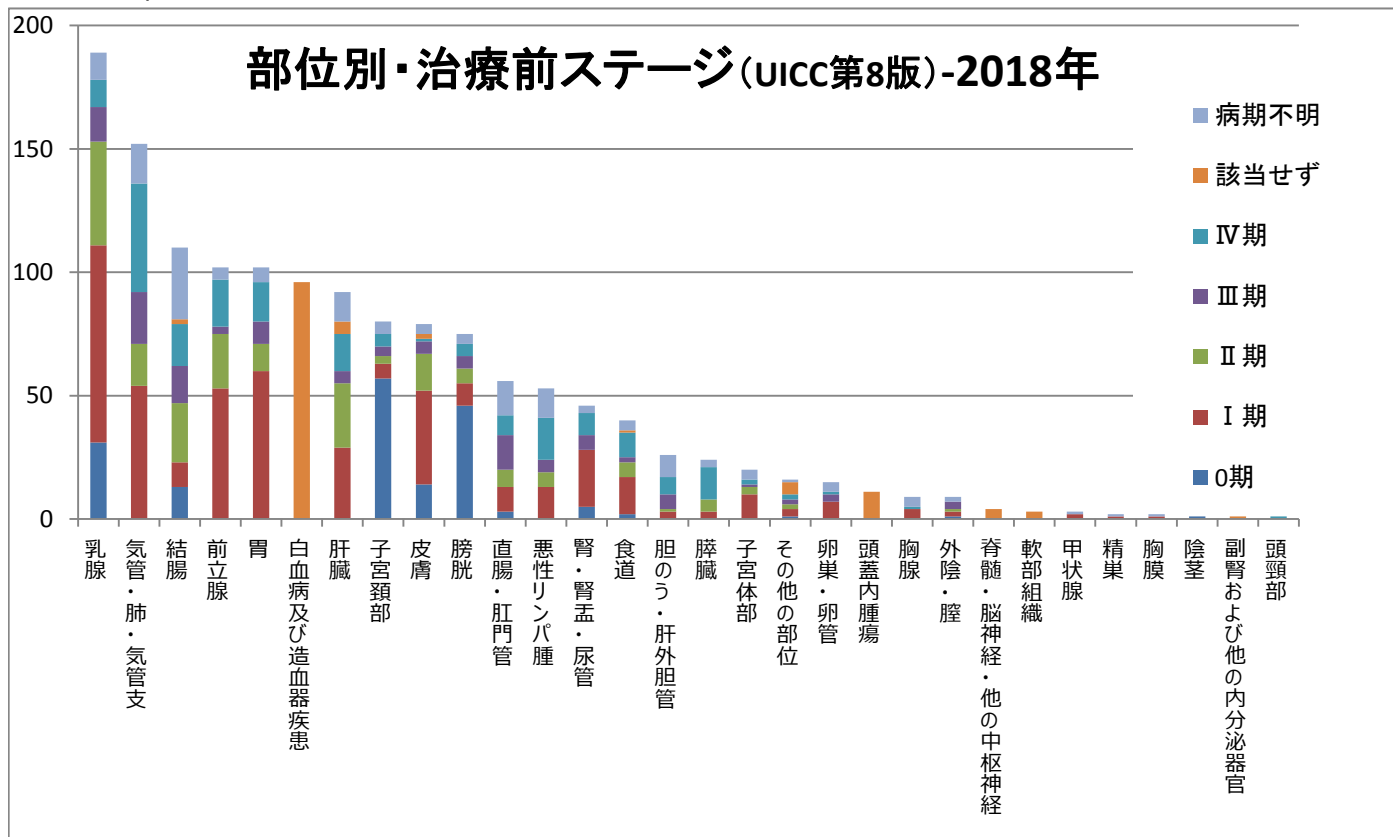
男性では「気管・肺・気管支」「前立腺」「結腸」「胃」が

女性では「乳腺」「子宮頸部」「白血病及び造血器疾患」「気管・肺・気管支」がそれぞれ多くなっています。

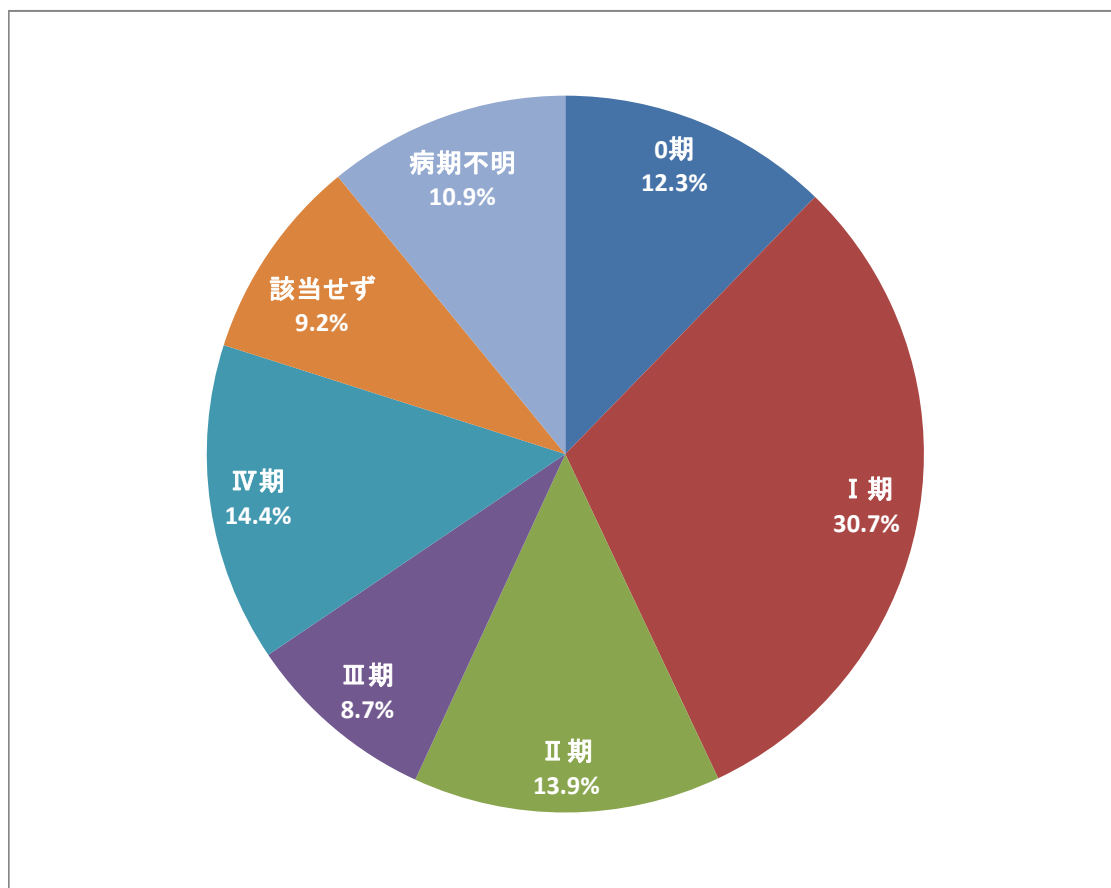


【部位別-ステージ】

治療前のステージをUICC第8版で集計しました。
 「乳腺」「前立腺」「胃」では I 期までの割合が多く占めています。
 全体の約1/3が治療前ステージ I 期です。

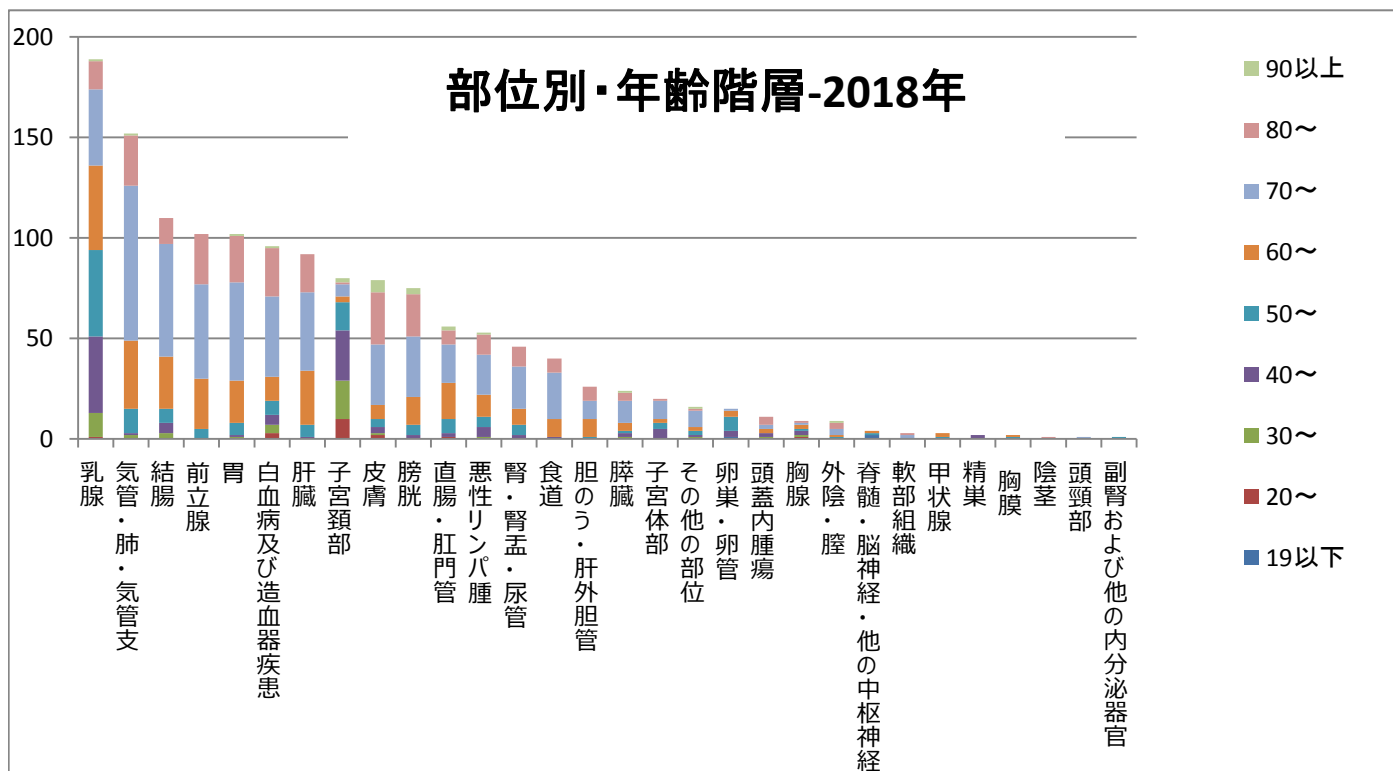


治療前ステージ(UICC8)-2018年

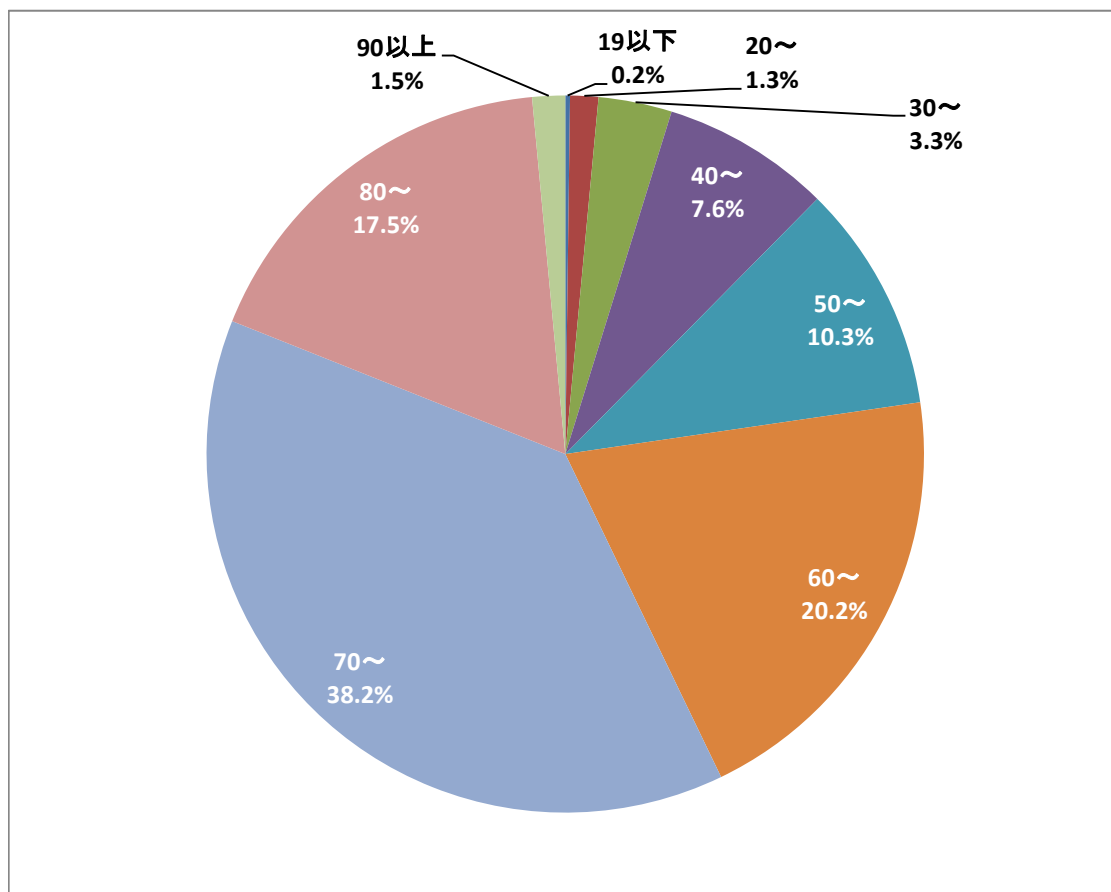


【部位別-年齢階層】

「乳腺」「子宮頸部」では60歳未満が半数以上を占めていますが
他の部位ではほとんどが60歳以上で、全体の約7割を60歳以上が占めています。



年齢階層-2018年



【初回治療・治療パターン】

「症例区分：自施設初回治療開始（995+265 = 1260件）」について治療パターン別に集計しました。

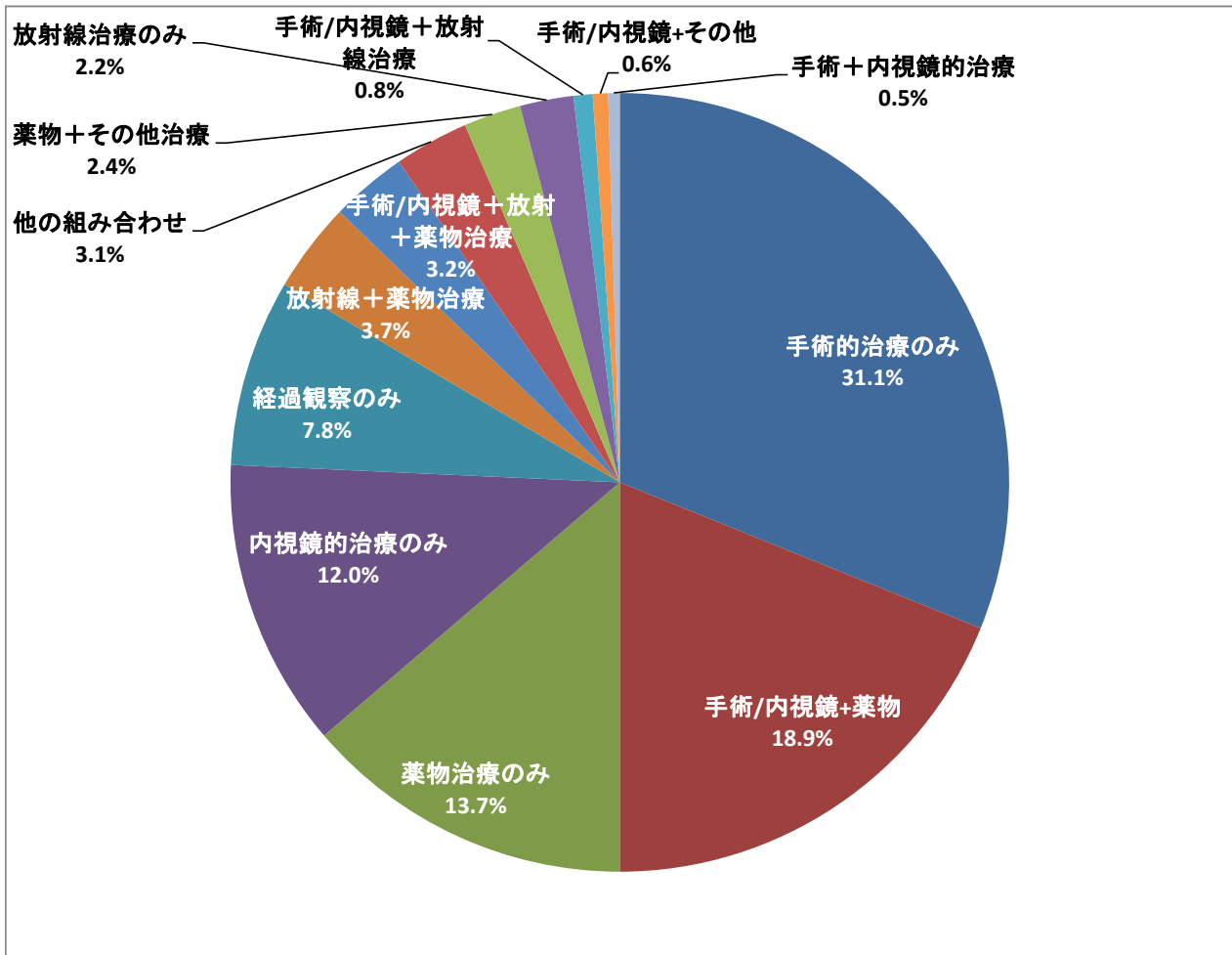
2018年	集計対象	【症例区分】					初回治療終了後
		診断のみ	自施設診断		他施設診断		
			自施設初回治療開始	自施設初回治療継続	自施設初回治療開始	自施設初回治療継続	
1,419	45	995	3	265	38	73	



がん登録における「初回治療」とは、「がん」と診断され「がん組織」の縮小・切除を意図して治療開始時点で計画された一連の治療のことです。診断に引き続き、最初に「経過観察」が計画された場合あるいは治療前に死亡された場合も「経過観察」という行為を初回治療とします。「手術」は外科的治療と体腔鏡治療、「薬物」は化学療法と内分泌療法を合わせています。

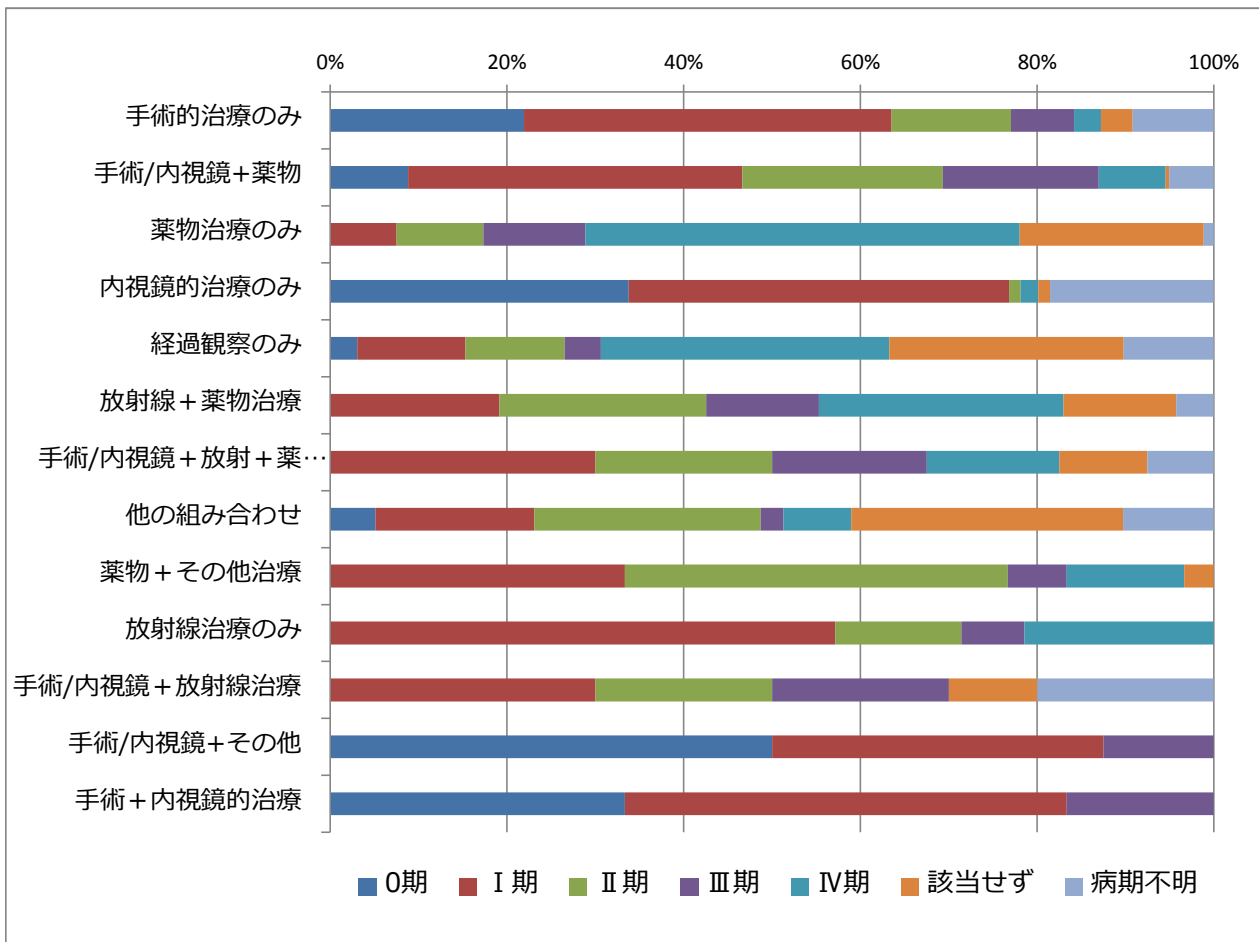
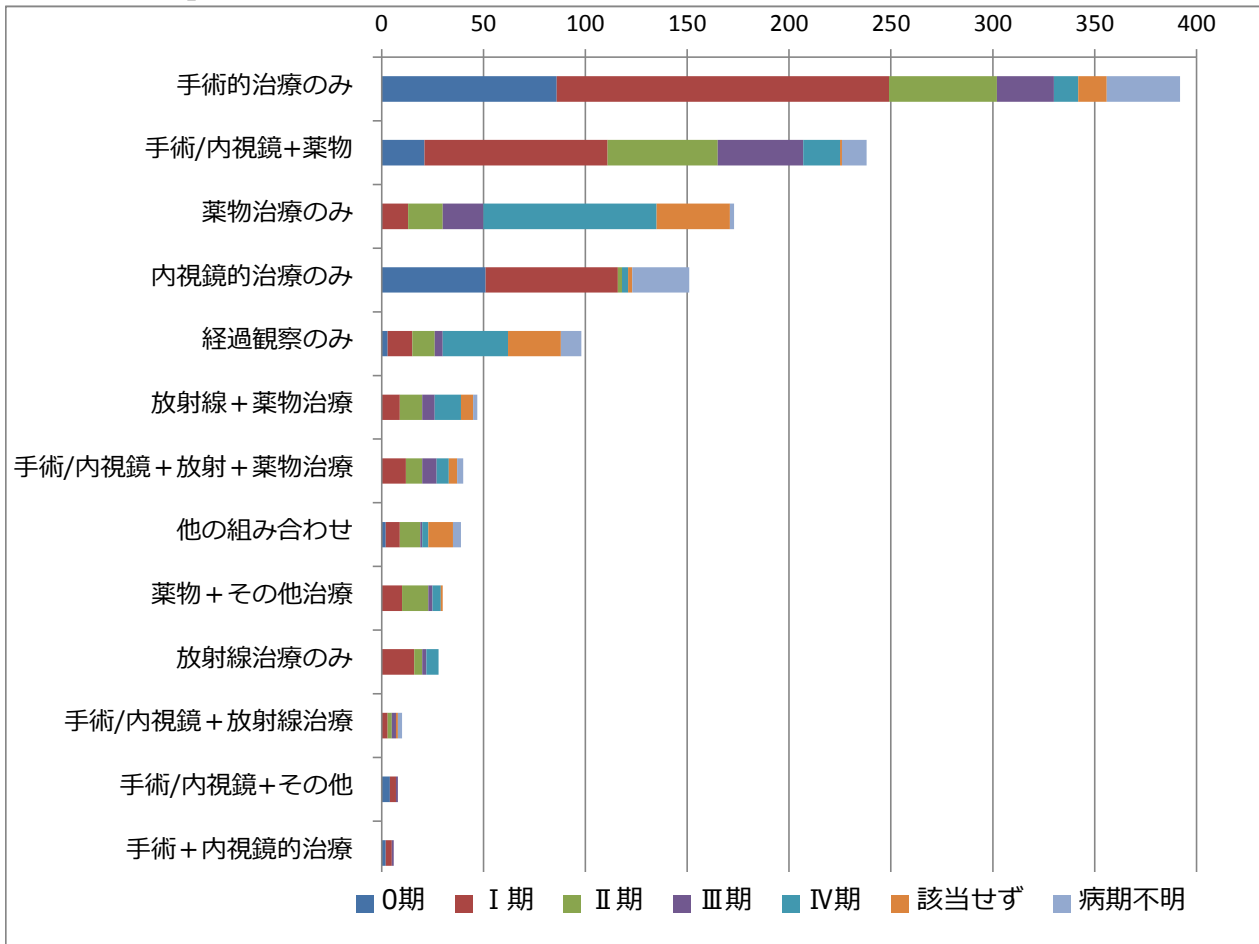
「手術のみ」が一番多く全体の約3割を占めています。次いで「手術/内視鏡+薬物」、「薬物療法のみ」「内視鏡のみ」「経過観察のみ」が多いです。

初回治療における治療パターン-2018年



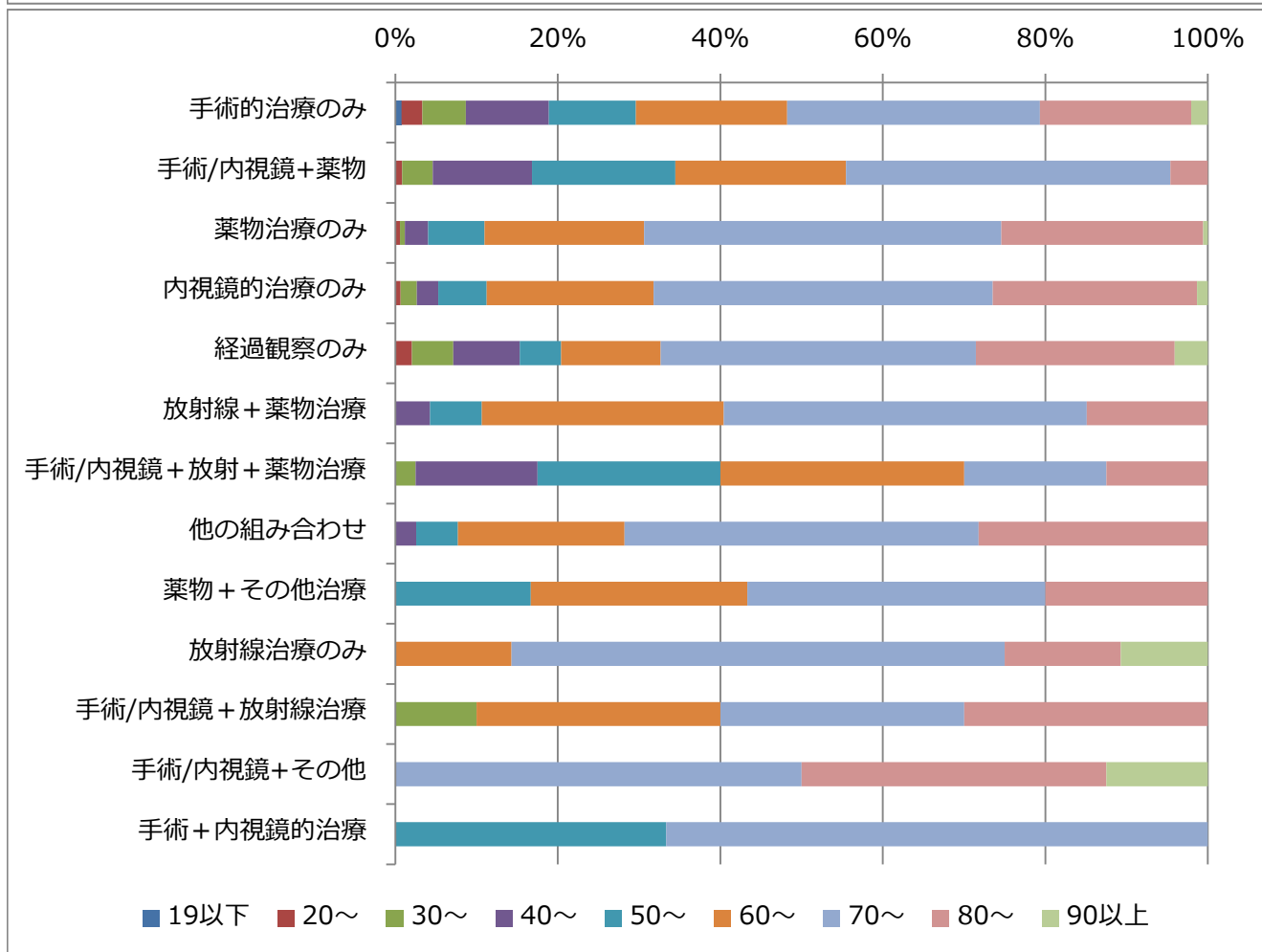
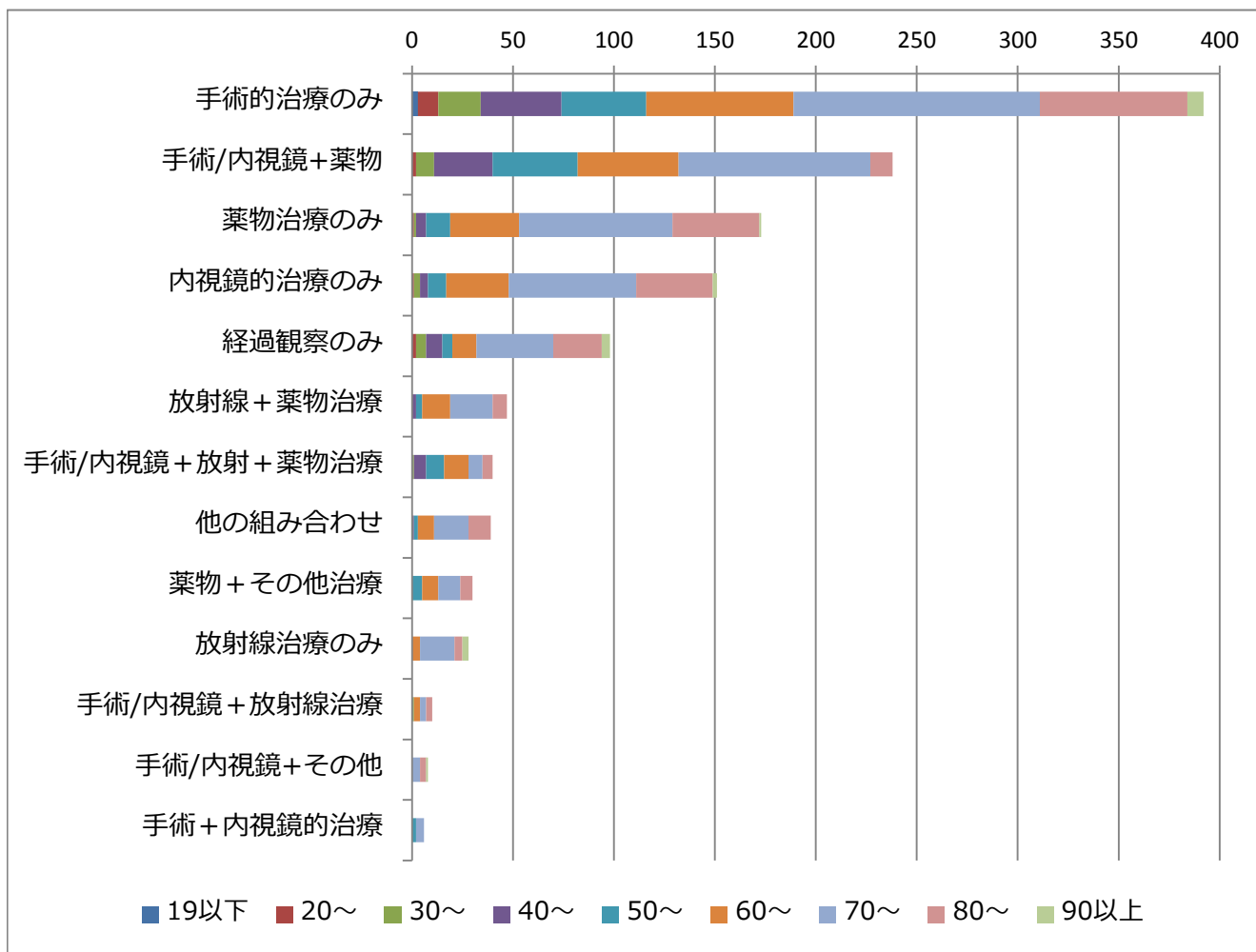
【治療パターン・治療前ステージ】

「手術のみ」「内視鏡のみ」ではステージ0期とステージ1期の早期がんの割合が多く、
「薬物療法のみ」ではステージ4期の割合が多くなっています。



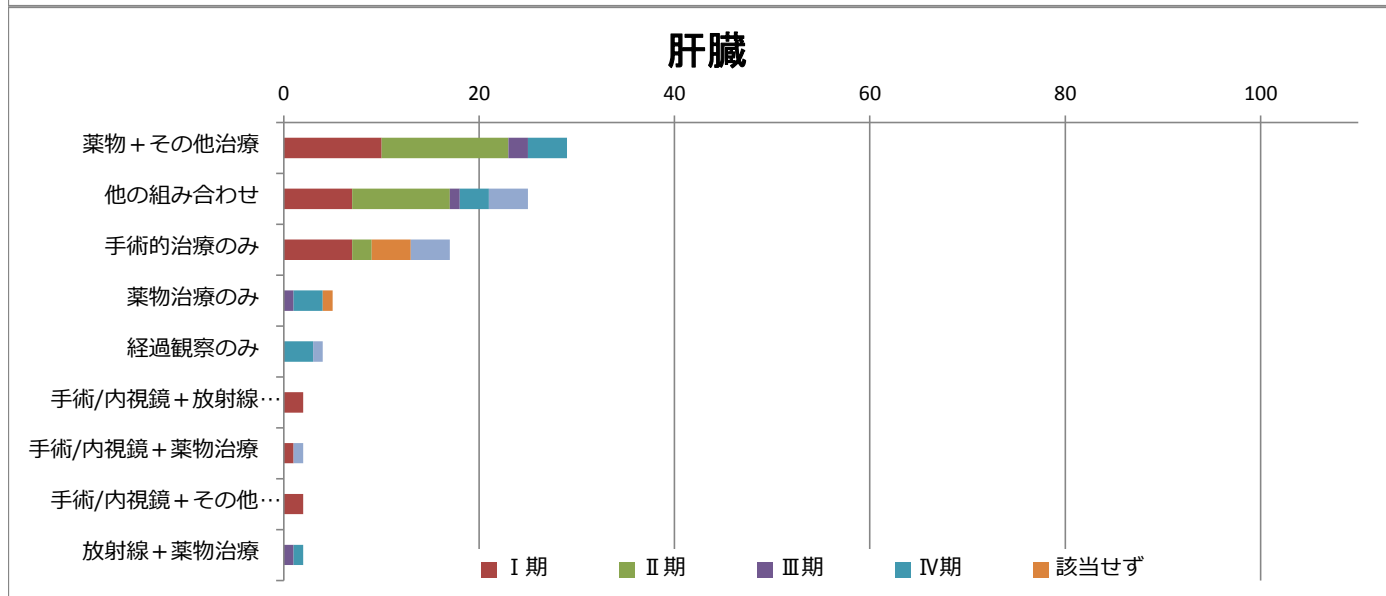
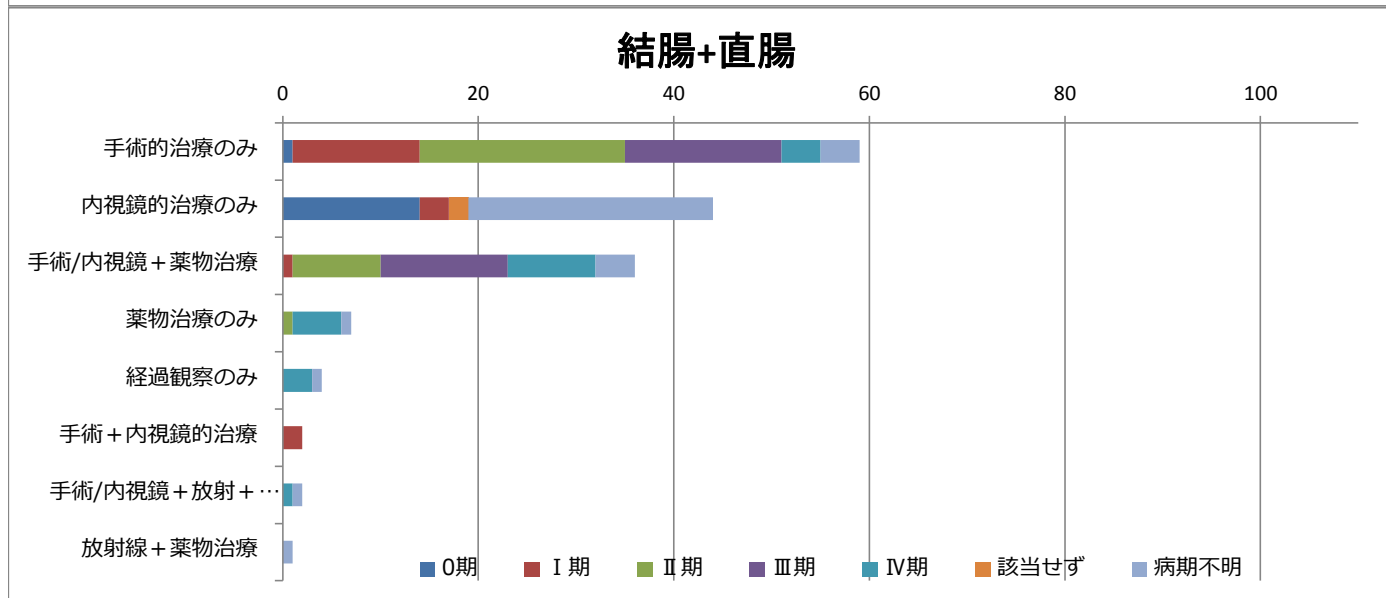
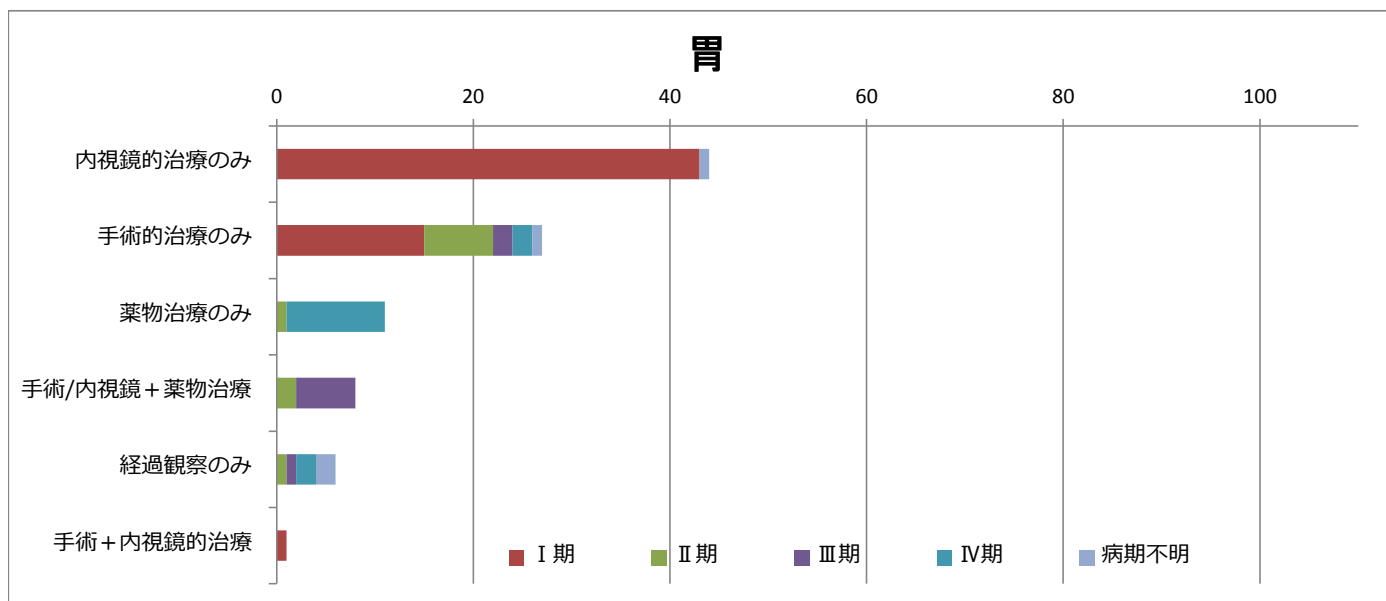
【治療パターン・年齢階層】

どの治療でも集計対象全体で見られたように、60歳～70歳代が多いです。

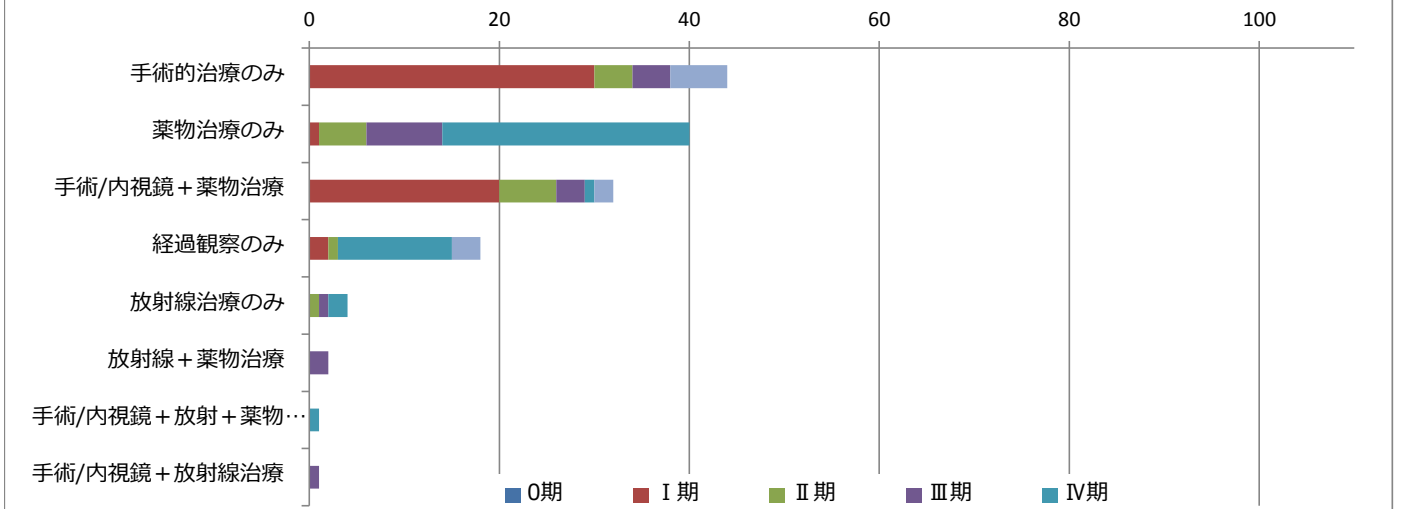


【治療パターン・治療前ステージ】（5大がんと前立腺がん）

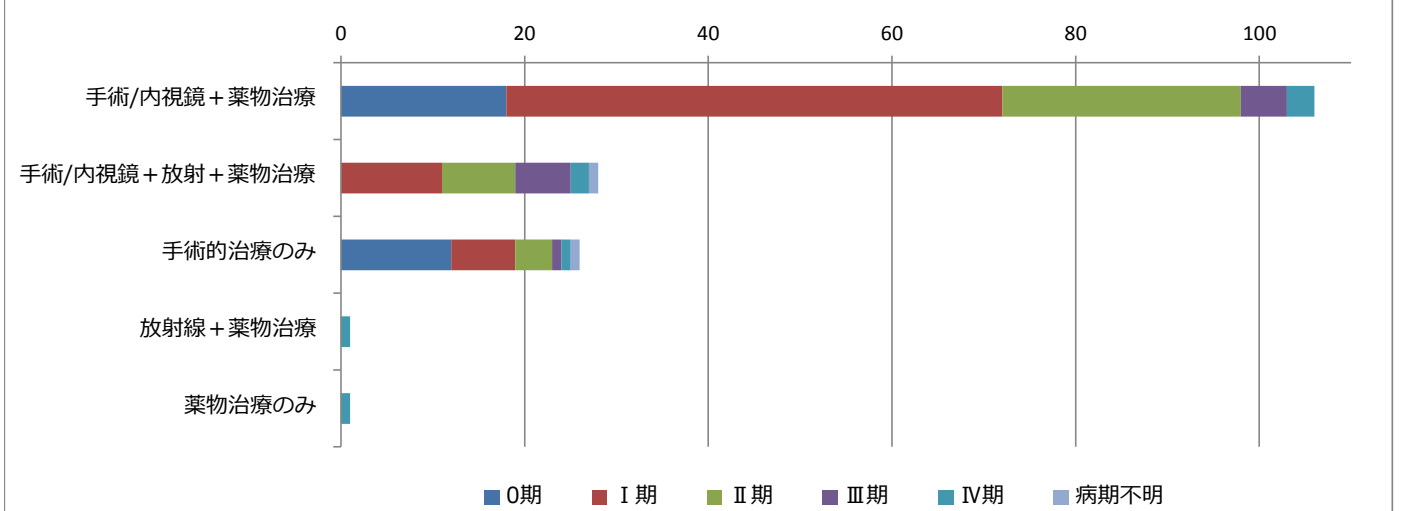
部位ごとに初回治療のパターンと治療前ステージ（UICC8）の組み合わせで集計し、多い順に示しました。



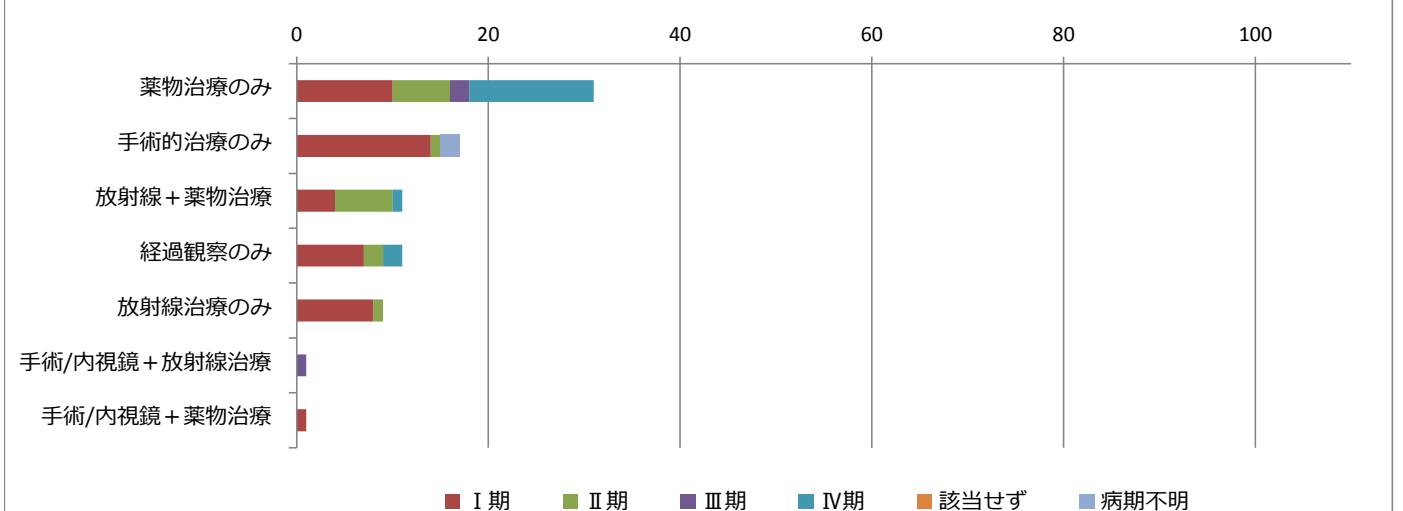
肺



乳腺



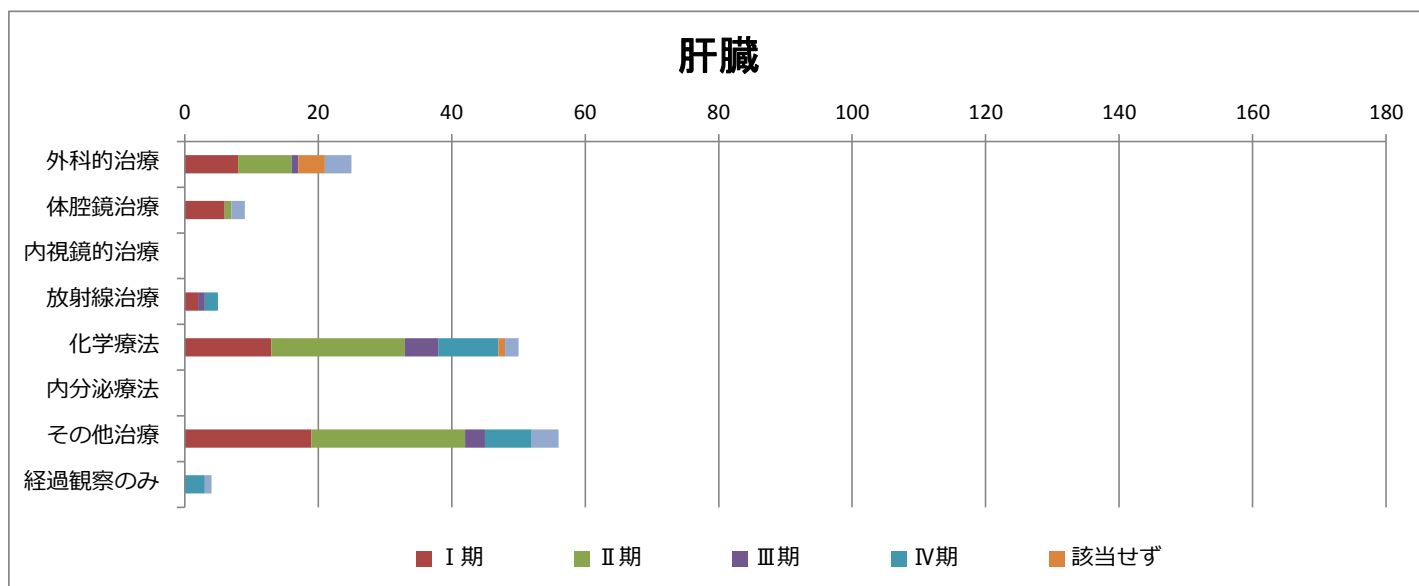
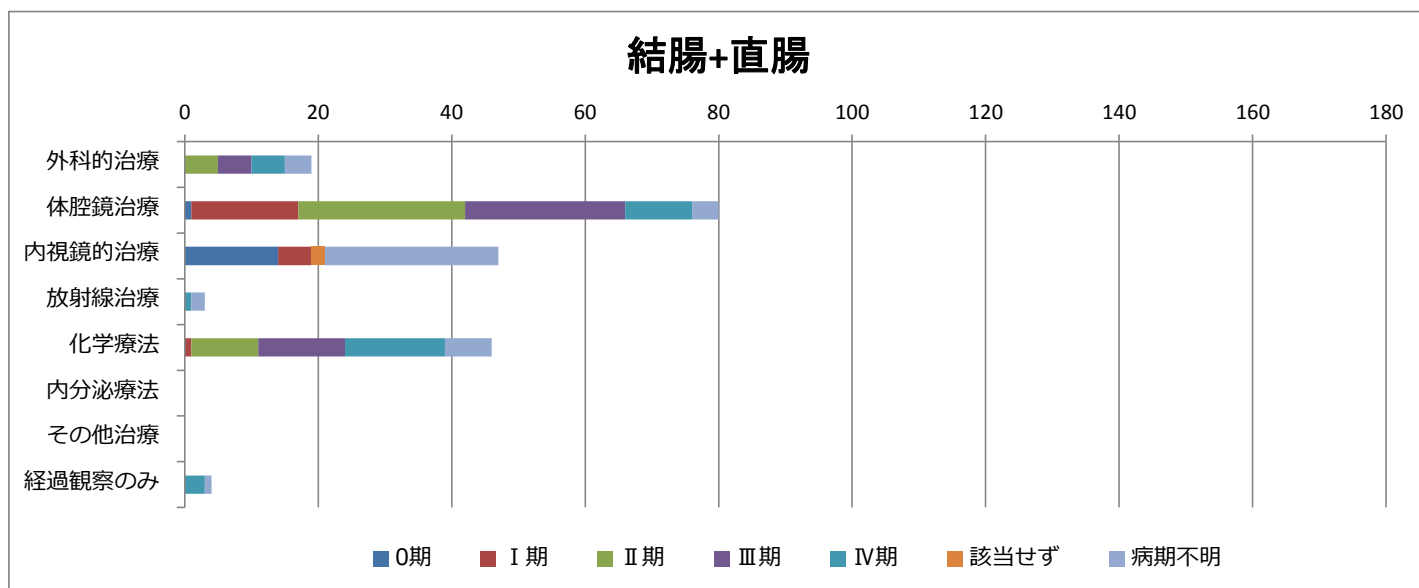
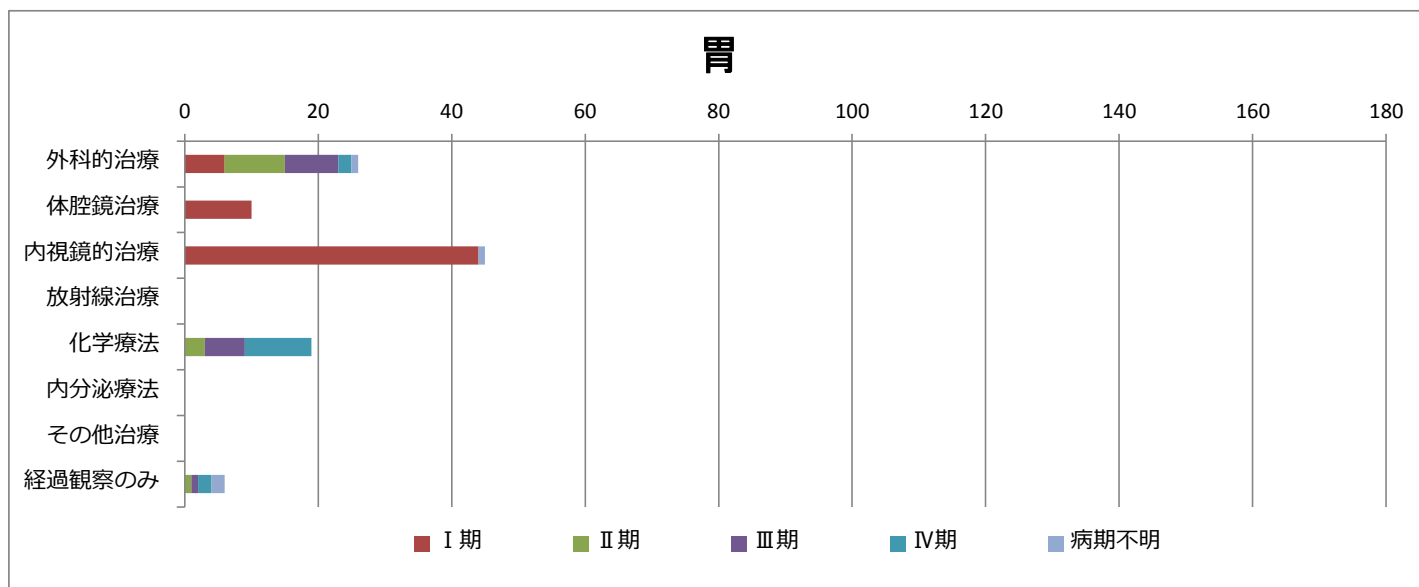
前立腺



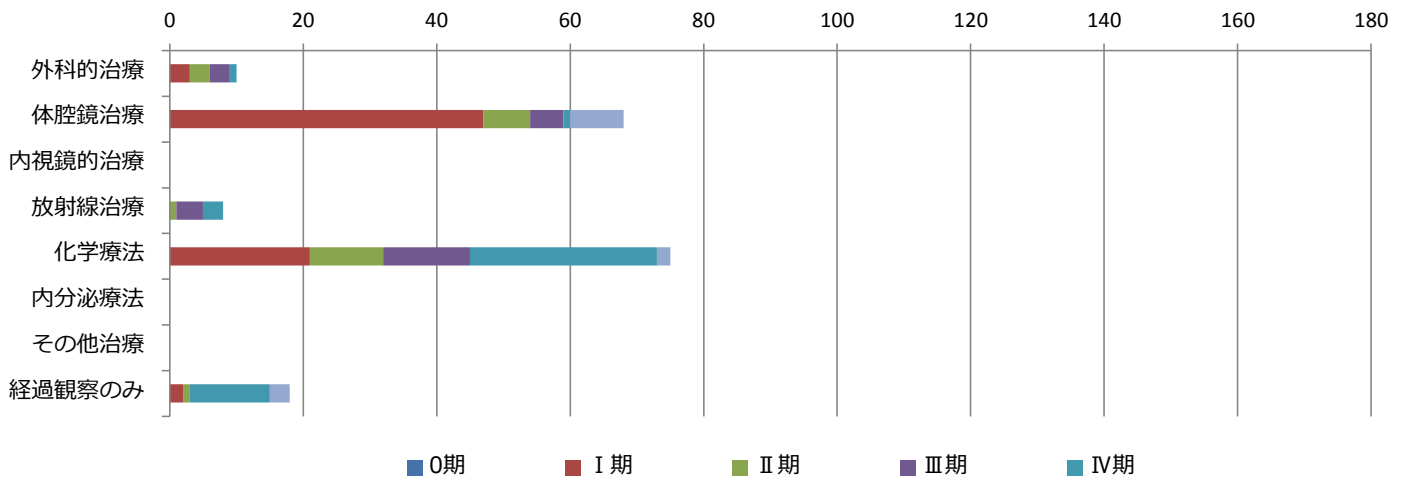
【治療ごとの集計・治療前ステージ】（5大がんと前立腺がん）

治療パターンではなく、それぞれの治療を治療前ステージ（UICC8）の組み合わせで集計しました。

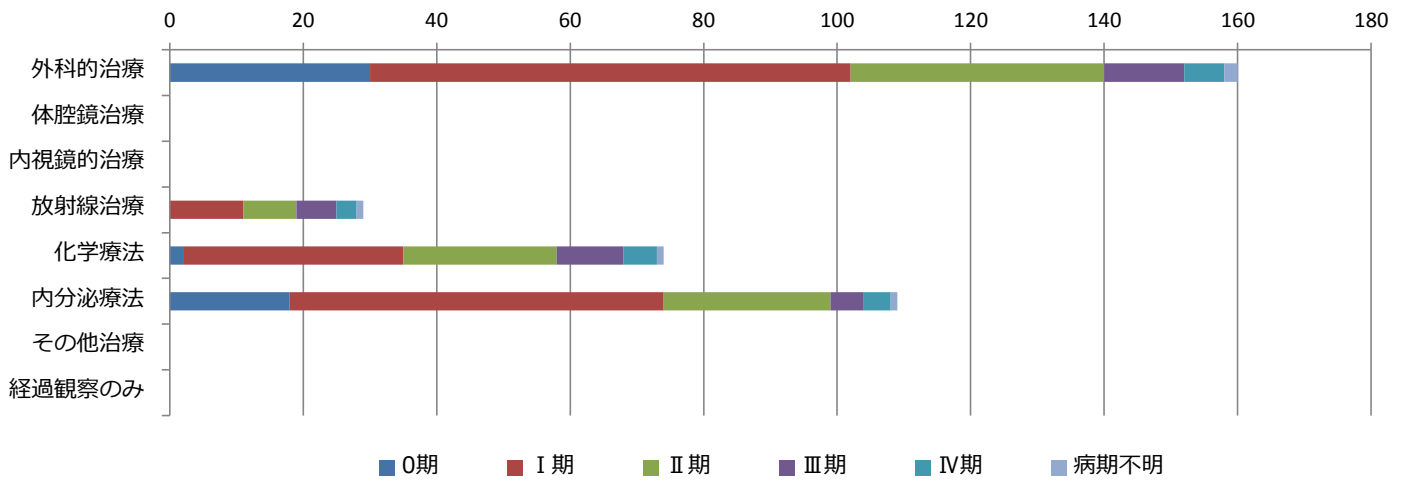
手術では外科的治療と体腔鏡治療、薬物療法を化学療法と内分泌療法に分けています。



肺



乳腺



前立腺

